令和7年度 第1回 大野市環境保全対策審議会 議事録

日 時 令和7年7月2日（水）午後7時～午後8時20分

場 所 結とぴあ 3階 302号室

○出席者

委 員：11名（うち1名は代理出席）

大野市：6名（くらし環境部長、環境・水循環課職員【事務局】4名）

1 開会

事務局より開会

2 会長あいさつ

会 長：本年度は大野市環境基本計画の中間見直しの年度であり、良好な環境を保全するとともに、より良い環境の創造を目指していくという計画の理念に沿うよう、これまでの5年間を振り返り、また、今後の5年間で行わなければならないことを明らかにして、有識者の皆様のご協力を得ながら計画見直しの役割をしっかりと果たしていきたい。

3 計画中間見直しの趣旨及びスケジュールについて 資料1

資料に基づき事務局より説明

（意見・質問）

なし

4 議事

(1) 中間見直しに係るアンケート結果について 資料2

資料に基づき事務局より説明

（意見・質問）

○アンケートの回収率について

会 長：市民向けアンケートの回収率が33.7%であったとのことであるが、5年前の計画策定時に行ったアンケートの回収率と比べてどうだったのか。

事務局：5年前の市民向けアンケートの回収率は50%を超え、非常に高い数値となった。今回の回収率が特に低かったという訳ではなく、昨年度に市が行った総合計画後期基本計画策定に向けたアンケートの回収率が約32%であったことを踏まえると、今回の回収率は標準的なものと受け止めている。

(2) 計画に掲げる施策（令和3年度～令和6年度）の取組状況及び成果に対する評価

（中間評価）について 資料3

資料に基づき事務局より説明

(意見・質問)

○プラスチックの分別回収について

委員：課題で「令和6年度からプラスチックの分別回収を開始したものの、資源化率は20%で横ばいの状況である」とのことであるが、正直、プラスチック類で出すものがないと感じている。20%という数値をどのように受け取ると良いのか。

事務局：令和6年度からプラスチックの分別回収を開始するにあたり、説明会を各地で開催し、多くの方々に参加いただいた。市が指定するプラスチックは、5品種38品目としており、いわゆる、プラマークが付いていないものを対象としている。実際、プラスチックの資源回収を開始すると、なかなかプラスチックが集まらないという状況となった。プラスチック製品自体が長持ちするということもあるが、5品種38品目の分別が分かりにくいという声もいただいている。昨年度は、10トンを少し下回るプラスチックが集まり、その中で20%が資源化をできているという状況である。集まる量が少ないうえ、資源化される量も少ないことから、市としても課題として捉えている。

○空き家について

委員：今にも壊れそうな状態の空き家の撤去はできないのか。

事務局：相続問題など、空き家一つ一つに事情がある。市として個人の財産に手をつけることは難しさがあり、行政代執行を行う事例は全国的でも少ない。解体にかかる費用は空き家の所有者が負担することになるが、支払いが困難な場合が想定されるため、市としてもなかなか代執行を行うことができない状況である。計画の数値目標に「特定空家の件数」を掲げており、令和6年度末時点で令和7年度にゼロにするという目標には届かなかったが、少しずつは減っているので、引き続き、所有者への連絡や補助制度の紹介などにより解体を促していきたい。

○太陽光発電設備の景観への影響について

委員：全国で太陽光発電設備が自然の中に整備される事例が見受けられる。これを規制するようなルールを作った方が良い。高齢化が進むと農地を手放す人も多くなり、その場所に企業が太陽光設備を建設するというケースが出てくる。大野の畑や野山などの景観を損なうことにつながるのでルールを作った方が良い。

事務局：現時点で、市で太陽光発電設備の設置を規制するような明確なルールはない。一方、国では太陽パネル廃棄物を問題視しており、これをリサイクルできないかといったような話題は出ている。個人が自分の土地に太陽光発電設備を建てるときに、市が規制するようなルールを作ることは難しいと考える。

委員：太陽光発電設備の高さは規制できないのか。

事務局：基本的に屋外広告物の規制はあるが、太陽光パネルがその規制に接触するかどうかは個別に判断しなければならない。

委員：市内には、県立公園や国立公園があり、自然景観が豊かな地域である。知らない

うちに自然のなかに太陽光発電設備が建っていたということにならないよう、ルールを明確化したほうが良い。絶滅危惧種問題や水の問題にも影響を及ぼす可能性がある。課題として計画に載せても良いと考える。

事務局：規制するかどうかは検討するとしても、計画に載せるべきかという点、計画は施策レベルを載せるので、ふさわしいかどうか検討が必要である。

事務局：全国では条例で規制している県や市町村もある。一方で、当市は豪雪地帯のため、太陽光発電設備の導入に不向きな地域でもある。そのようなことも踏まえて、規制を設けることが必要かどうか検討したい。

○学生服のリサイクルについて

委員：廃棄物の減量とリサイクルに関して、不要になった学生服を再利用する取組みへの啓発を行ってはどうか。例えば、学生服を回収し、再度繊維として利用する反毛という方法もある。

事務局：衣類のリサイクルは自治体が行っている事例があるので参考としたい。

○事務局評価の基準について

会長：中間評価における事務局評価の基準を教えてください。

事務局：基本方針ごとの数値目標の達成率をもとに評価を行った。複数の数値目標がある場合は、それぞれの達成率の平均値を出し、その数値が90%以上であれば○（順調）、30%未満であれば×（相当な努力が必要）、これらの間であれば△（努力が必要）という基準で評価を行った。

○生物多様性の確保と認知度について

委員：計画の基本方針には「生物多様性の確保」と表記されているが、数値目標は「生物多様性の認知度」となっている。確保と認知度は異なると思うが、どのように整理しているのか。

事務局：生物多様性の認知度が低いことを課題と捉えて、自然と触れ合う活動を提供するような取組が必要と考えている。また、生物多様性の確保として、例えば、希少な動植物の保全にも取り組むことが必要である。両方とも現行の計画に掲げているが、見直し後についても充実させていく必要があると考えている。

委員：生物多様性の確保に取り組むことと、言葉の認知度を上げることは別ものである。生物多様性の確保のためには人々が行動することが伴うものである。

委員：基本方針と数値目標がリンクしていないということか。

委員：生物多様性の確保のためには、市や子どもたちが活動していることが重要であって、言葉の認知度の数値が低いか高いかの問題ではない。

事務局：確かに言葉を知ってるだけでは良くないが、アンケート結果によると言葉さえも知らないという人が半分もいるのが現状である。まずは言葉を知ってもらい、次に行動に移してもらおうような施策展開が必要と考えている。この数値目標がふさわしいかどうかについては、今後の中間見直しの議論の中でご審議いただきたい。

以上の意見交換を経て、事務局評価のとおり審議会としての評価とすることを決定。

(3) 中間見直しの方向性について 資料 4

資料に基づき事務局より説明

(意見・質問)

○数値目標について

委員：中間見直しでは数値目標も新しく設定するということか。

事務局：新しく設定する数値目標もあれば、現行のものを継続することもある。また、現在策定中の総合計画後期基本計画に掲げる数値目標と重複するものも出てくる可能性がある。

会長：現行計画の計画期間は10年であり、数値目標は令和元年度を基準年度に、令和12年度を最終目標年度と設定しているが、これを中間見直しにより、令和6年度を基準年度として設定し直すことは問題がないのか。

事務局：迷った部分ではあるが、総合計画後期基本計画の数値目標との整合性を取るという観点から再設定をせざるを得ないと考えている。また、環境分野は、ここ数年で目まぐるしく国の動向や社会情勢が変わっているため、再設定がふさわしいと考えている。また、現行と同じ数値目標を継続する場合でも、目標数値を変更することもある。

○施策体系について

委員：今回示された施策体系の修正案は大枠のものと捉えれば良いか。今後、市で検討して改めて諮るということではよろしいか。

事務局：お見込みのとおりで、今回の修正案は大枠のものである。9月の第2回審議会でも7割程度の出来の素案をお示しするので、そのときにご意見をいただきたい。

(4) その他

事務局：第2回審議会は9月に開催し、計画素案についてご審議いただきたい。

5 閉会

副会長：活発なご意見をいただき、計画に対する理解が深まったと思う。次回以降も引き続き慎重審議をお願いしたい。

>> 終了